

Small Talkについて

1. Small Talkを行う目的

(小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック P.84-85より)

- ・既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図ること
- ・対話を続けるための基本的な表現(対話の開始, 繰り返し, 一言感想, 確かめ, さらに質問, 対話の終了)の定着を図ること

2. Small Talkの例 (HRT:H, ALT:A, 児童:S)

(例) 5年生 Who is your hero? あこがれの人 (1/8時間目)

H: I like baseball very much. (写真を見せながら)
This is my hero, Mr. ~. (ジェスチャーをしながら)
He can play baseball.
A: He is nice. In this class, who can play baseball?
S1: A-san can play baseball.
H: That's nice. He can play baseball.
A: Oh, nice. How about teachers?
H: A-sensei can play baseball.
S2: B-sensei can run fast.
A: Please tell me more about the teachers of this school.
H: ALTの先生に, 先生たちのできることをたくさん教えてあげよう。
S3: C-sensei can play the piano.
A: Really? She is fantastic!
S4: D-sensei can sing well.
A: Wow! He can sing well? He is nice.
H: 英語で言えなかった表現はありませんか。
S5: 「けん玉ができる」って, 何て言えばいいかな。
S6: "play kendama."だよ!
H: そうだね。みんなで言ってみよう。He can play kendama.
SS: He can play kendama.
H: Everyone, good job!

3. 行う際に意識すること

Point 1

非言語情報(ピクチャーカード, イラスト, 実物, ジェスチャー等)を十分に活用する。

Point 2

既習表現や対話を続けるための基本的な表現を使用する。

Point 3

教師間のやり取りから, 教師と児童のやり取りへ広げる。6年生では, 児童同士のやり取りへ広げる。

Point 4

児童が英語で表現できなかったことがないかを確認する。

4. Q&A

Q. Small Talkは, 全て英語で行うのですか?

非言語情報を十分に与えながら, 簡単な語句や表現, 既習事項を活用し, できるだけ英語で行うように心がけましょう。日本語に全て訳さないようにしましょう。100%理解させようとしたり, 教え込み過ぎたりせず, 「何のことを話しているのかな」と推測させることが大切です。また, 伝えたくても英語で表現できなかったことはないかを確認することも大切です。既習表現であれば児童に想起させるようにします。